NO.60

63.3/6 7

秋田さきがけ

パッと咲いた"人間花火"

スキーウエア 雪に色鮮やか

協和スキー場10周年前年祭

真っ白なゲレンデにカラフルな"人間花火"の花を咲かせようという「協和スキー場一発一万人パフォーマンス」（協和町、協和町観光協会共催）が六日、仙北郡協和町の町立協和スキー場で開かれた。

この奇抜なパフォーマンスは、来シーズンでオープン十周年を迎える同スキー場が、誘客の促進と感謝の意を込めて開設十周年記念「前年祭」の一環として、計画した。

色とりどりのスキーウエアに身を包んだ参加者たちが、第一ゲレンデの中腹にちょうど打ち上げ花火が夜空に開いたような直径約二十㍍の大きな二つの円状に並ぶ。全員が配布された白いビニールをかぶり雪面に腹ばいになるので、遠くから見るとゲレンデの白さにまぎれて全く分からない。スノーモービルが発煙筒をたきながら下から駆け上がり、輪の中心に達した際、内側から順序に白いビニールを取り除くと、各自のスキーウエアが白一色のゲレンデに映え、花火のように見えるという趣向。

この日は、町内の小中学生や秋田市などから訪れたスキーヤーなど約一千人が参加。数回のリハーサルの後、いよいよ本番となった。降っていた雪もピタリとやみ太陽が顔をのぞかせる絶好のコンディション。ノロシを合図に、スノーモービルがスタート。中心点に達すると同時に、白いビニールが次々に赤や青、黄の鮮やかな色に変わり、見事ゲレンデに"人間花火"が咲いた。

午後からは地区別対抗スキー大会や自作そり乗り競技、またナイタースキーの時間帯には本物の花火二千発も打ち上げられ、来場者たちは冬の夜空に広がる花火を楽しんでいた。

ゲレンデに咲いた"人間花火"

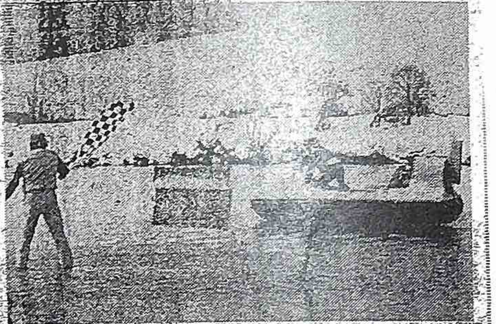
1988年（昭和63年）3月[illegible]曜日）

讀賣新聞

ホーバークラフトの選手権

西仙北で全国初

○…若者たちのアウトドアスポーツとして人気の出ている小型ホーバークラフトの第一回全日本選手権大会が三日、西仙北町刈和野の雄物川で行われた。ボートの底から空気を噴射して浮上、水上や雪上を縦横に走り回る珍しい乗り物のレースに、河原につめかけた町内外の観衆は大喜び。



[illegible]全国初の大会で選手たちは大張り切り

○…ホーバークラフトは、水陸輸送用のものから、最近はレジャー、スポーツ用の小型艇が開発され、手造りのボートも登場している。全国の仲間たちが、競技大会を計画したところ、会場がなかなか見つからないのを知った西仙北の有志が、昨年秋、町や商工会に働きかけ、町おこしのイベントとして大会を誘致した。

○…競技は、水上と雪上を合わせた約二・五㌔のコースのタイムを競う方法。北海道、[illegible]山梨、[illegible]人の選手たちが参加し、小雪の舞う雄物川を舞台に、競艇に似た果敢なレースを展開、あざやかなテクニックを披露した。

競技の結果は、北海道釧路市の新岡悦蔵選手（三一）が、4分53秒25のタイムで優勝。本県勢では、神岡町神宮寺の建設業伊東忠治選手（三三）が七位に食い込んだ。

昭和63年（1988年）3月4日（金曜日）

日本経済新聞

小型ホーバークラフト競技会開催

秋田県西仙北町で

秋田県仙北郡西仙北町で三日、全国初の小型ホーバークラフト競技選手権大会が開かれた。全日本小型ホーバークラフト協会（岡本政司理事長）が主催、同町が町おこしの一環として大会を誘致したもの。雄物川の水量豊富で河川敷の広い地の利を生かして、約三・五㌔の水、陸（雪上）の周回コースを設置、北海道から西は滋賀県まで十七艇、二十一人が参加、釧路ホーバークラフトの新岡悦蔵さん（31）が四分五十三秒で優勝した。